

MAENAN SAH Journal Vol.9

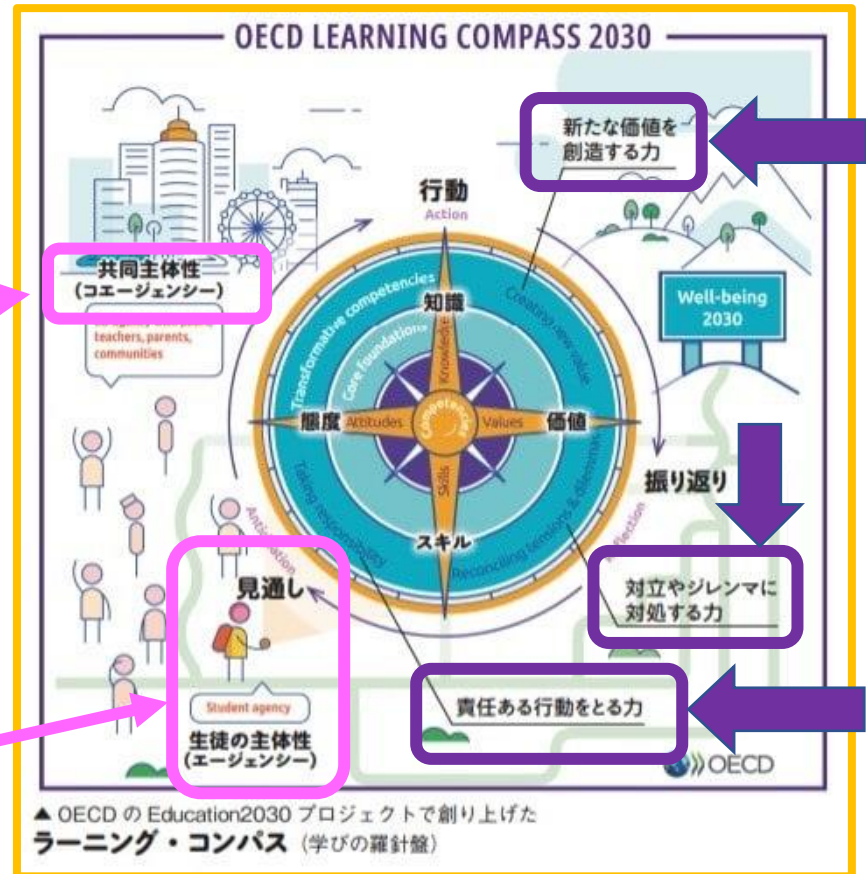
～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ July 27th, 2023

群馬県の『SAH事業』は『OECD』の

『LEARNING COMPASS 2030』から生まれました！

『OECDのEducation2030プロジェクト』は、2019年に『OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』を公表しました。この『ラーニング・コンパス』は、『教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組み』であり、『私たちの望む未来（Future We Want）』としています。

この『ラーニング・コンパス』が示しているのは、『2030年に向けて、生徒たちがどのようなコンピテンシー（資質・能力）を身に付け、どのような人々と協働しながら何をを目指すのか、を描いた世界基準のコンセプトマップ』としており、『人々にインスピレーションを与えたり、生徒をより深く知ったりするためのツール』だと位置づけています。ぜひみなさんとも『イメージの共有』をお願いします！



★『Co-agency』★『生徒エージェンシー』に伴走する

のが、『仲間、教師、家族、コミュニティ』などの『Co-agency（共同エージェンシー）』です。これらはいずれもがそれぞれに『Agency（主体性）』を持っており、『生徒エージェンシーに影響を与える』と同時に、『生徒エージェンシーから影響を与える』、つまり『相互に学習し合う関係』を『共同エージェンシー』と言っています。当然、『教師エージェンシー』『保護者エージェンシー』もあるわけです。当然のことながら、生徒にとっての学びの場は『学校に限られたものではなく、あらゆる場が学習環境』となり得ます。『積極的に生徒が社会と関わっていく』ということの意味します。

★『Student Agency』★コンセプトの中核に位置

するのが『Student Agency（生徒エージェンシー）』です。これは『変革を起こすために目標を設定し、ふり返りながら責任ある行動をとる能力』と定義され、『主体性』と置き換えることも可能です。それは『自分で考え、判断し、責任を持って行動できる能力や態度』を指しますが、『周囲との関係を重視しており、社会を理解し、自分がやるべきことに気づき、世界に影響を与えること』までをも含んでいる大きな概念となっています。

★『変革を起こす力』を生む3つの『コンピテンシー』★

①『新たな価値を創造する力』・・・「他者との協働により既存の知識から新しい知識を生み出すことを通して」イノベーションが引き起こされるとし、適応力、創造力、好奇心、新しいものに対して受け入れることができるオープンな意識が必要だとしています。

②『対立やジレンマに対処する力』・・・「矛盾した考えや相容れない考え、論理、立場についても、それらの相互のつながりや関連性を考慮しながら、より総合的な形で考え行動していく」学習が必要とし、体系的な思考の育成を求めています。

③『責任ある行動をとる力』・・・自分の成果物について責任をもって説明できる力。自分のとった行動を振り返ったり、評価する自己調整できる力が大切になると捉えています。そのときに必要となるのは、責任感・問題解決・適応力も含まれるとしています。



先日、県教育委員会高校教育課の天野課長が来校し、関根校長先生に「SAH指定証」を贈呈されました。群馬で2校の指定です！

『変革を起こす力』を生む3つのコンピテンシーを私も手に入れたいと思います！意識してみませんか？ 文責：星野 亨（教頭）

★校長より★

今号のJournalをぱっと見て、「今回の教頭先生は、『セーラーブルートのガーネットオーブ』できたか。」と、Vol.5に続きまたまた早合点してしまいました。皆さんは三種の神器を知っていますね。そう、古事記・日本書紀に出てくる「天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）」「八咫鏡（やたのががみ）」「八咫瓊勾玉（やさかにのまがたま）」のことです。セーラー戦士ウラヌスとネプチューン、ブルートのもつ「スペースソード」「ディープアクアミラー」「ガーネットオーブ」はそれになぞらえたものです。これら全てが揃うと何かが起きるとされています。『変革を起こす力』を生む上記の3つのコンピテンシーは、『創造』『対話』『自律』といえます。まさにOECDの唱える身につけたい力です。これらが揃ったら何が起ころのでしょうか。ワクワクしませんか。

校長 関根 正弘